

# 【経済学史・社会思想史】 鳴子 博子



演習テーマ：社会思想史から現代社会の諸問題を考える

## <活動内容>

- ・私たちのゼミでは、まず共通のテキスト(社会思想史の古典)を正確に読む読解力を身につけること、レジュメの作成、報告、司会、質疑応答、討論することを学びます。概説書、参考文献を学ぶことは重要ですが、古典のテキストを読む前に概説書を読むと、その内容にどうしても引きずられてしまうというデメリットがあります。そこで、あくまでも古典のテキストの精読にウェートを置き、概説書、参考文献の学びは、テキストを読んでからにしたいと思います。
- ・社会科学の基礎を学ぶ中で、ゼミ生に、グループで追究したい問題や個人で学びたいテーマを見つけてもらい、グループ(共同)研究と個人研究を車の両輪のように進めます。グループ(共同)研究は、演習1の第一段階(2年の学年末のまとめ)を経て、演習2の学内プレゼンテーション大会(3年の秋)での発表で完結させます。個人研究は、演習2の第一段階(3年の学年末のまとめ)を経て、演習3の演習論文の完成(4年の1月)で完結させます。
- ・演習1では、ルソーの『エミール』(下)と『人間不平等起原論』を読みます。1人では読み通すことが簡単ではないテキストと一緒に読み進めることで、内容をよりよく理解できるようにします。
- ・『エミール』(下)は、ルソーの主著『エミール』の3分冊の最後の1冊に当たります。『エミール』は一般に教育書と見なされていますが、社会、経済、宗教、政治などが連関する社会科学書で、下巻はジェンダー論としても重要です。ここから古典の世界に入ってゆきます。
- ・『人間不平等起原論』は、自由なものとして生まれた人間がどのような道を辿って不平等を拡大させ、奴隷と化してしまっただのかを大胆に描いた人類の歴史書で、経済、政治、歴史などを包摂する体系的な書です。事物の根源に遡って問題の本質に迫る古典の魅力に触れるとともに、格差や貧困など現代の私たちの抱えるさまざまな問題を考える手がかりを発見します。
- ・グループをつくり、グループごとの研究テーマを決めて(2年の春学期中)、共同論文を完成させます(2年の学年末)。テーマは古典研究でも現代の問題の探究でも自由に、グループごとに協議して決定します。

## <ゼミ紹介>

2016年度は、夏合宿と春合宿を石和温泉で行い、春合宿ではゼミの合間に甲府でワイナリー見学もしました。2017年度の夏合宿は軽井沢に行きました。ゼミはチームワークが大切です。合宿はふだんのゼミ室から場所を移して、みんなで時間を共有する大切な場です。楽しく真剣に、活発なゼミをみんなで作ってゆきましょう！！